

佐藤 元 (北海道宗谷郡)

タイトル「やっぱ愛っしょ！」

親殺し、子殺し、虐待。毎日のように報道される、家庭内の殺伐とした事件。

僕は、そこに救いようの無い貧しさを感じる。自慢じゃあないが、我が家は貧しい。いや、自慢できるほど貧しいと言った方がいいかも知れない。だが、事件に感じる貧しさは、我が家の貧しさとは異なる物だ。

「子供のためなら何でもできる。」

「お金は無いけど、愛はたっぷりよ。」

両親の口癖だ。そして言葉通り、67歳の父は老体に（父さんゴメン）鞭打って、肉体労働で生活を支える。障害を抱えつつ母は、家事をこなし、料理は天下一品。ただし材料には、母曰く『佐藤家ご用達の印』である50%OFFのシール付き。ともかく、僕は両親から言葉・体・心でたっぷりの愛を与えられた。その愛をしっかりと受けとめて、僕は育った。

愛されることは、心地よい。その心地よさの中で僕は、人を愛することを学んだ。愛するとは、いとおしみ、守ること。しかし、少なくとも金銭的には我が家より豊かな家庭で起こった、心貧しい事件には、愛の気配すらない。お金が不必要とは言わない。お金があれば、父は体を休め、母は湯治へ。僕は大学進学を迷わなくて済む。けれど、愛の無い所に、真の豊かさと幸福は無い。それを教え、学ぶ場が家庭。その機能が働かない家庭の増加が、悲惨な事件の増加に繋がっているのだと思う。社会において、最小の単位である家庭の崩壊は、社会全体の崩壊を意味する。それを避けるためにも、家庭を見直す時期に来ているのではないだろうか。

17歳の僕が『愛』を口にすると、同世代の友達から『キモイ』『ウザイ』とそしられるかもしれない。だが、あえて僕は言う。

人間、ど真ん中にズドンと通さなきゃならない物、それは、やっぱ愛っしょ！愛！